2008 年 10 月 6 日

「インフラ事業における民間資金導入に関するシンポジウム」開催報告

小澤一雅（東京大学）・保田敬一（ニュージェック）

本シンポジウムは、「ファイナンス手法研究小委員会」（委員長：小澤一雅東京大学教授、2006～2008 年度）で議論した内容、すなわち、個別の事業毎にその特徴と課題を整理し、今後の新たな民間資金導入の可能性について検討した結果をもとに、インフラ事業の運営や整備・更新等に必要な資金を民間から導入する手法を考えることを目的に、2008 年 10 月 3 日(金)の 13 時より土木学会講堂にて行われた。その成果は、建設マネジメントシリーズ④「インフラ事業における民間資金導入への挑戦」（土木学会）として報告書の形に纏められている。

開会に先立ち、小澤一雅東京大学教授より挨拶がなされ、委員会の概要説明と設立趣旨，目的や成果について報告があった。続いて、WG ごとに以下の 5 名により表－１の内容で報告があった.

表－１　発表者と発表内容

発表者（所属）	発表題目	発表内容
矢代晴実委員（東京海上日動リスクコンサルティング（株）） 基礎理論 WG	民間資金導入のニーズと可能性	・地方の財政状況 ・民間資金導入の必要性と自治体アンケート結果 ・調達手法の多様化と民間ノウハウの活用 ・地方債（海外と国内） ・新しいファイナンス手法（レベニューボンド，ミニ地方公募債，プロジェクトファイナンス，出捐，社会ファンド）
玉真俊彦委員（日本上下水道設計（株）） 上下水道 WG	上下水道事業における民間資金導入	・上下水道事業の課題 ・Ａ市下水道事業の財政収支見通し ・課題解決の方向性とまとめ ・長期低利資金の調達（ミニ公募債，レベニューボンド，出捐金） ・PPP による事業運営の効率化（ベルリン上下水公社の完全民営化事例）
坂東弘委員（プロジェクト＆ソリューション・システム（株）） まちづくり WG	まちづくり事業における民間資金導入	・まちづくりファイナンス検討の目的 ・まちづくりファイナンスを構成する要素（国の支援，ESCO 事業，地方債，まちづくりファイナンス） ・ファイナンススキームの検討（官民連携など） ・今後の課題と解決の方向性（レベニューボンドの適用，ソーシャルファイナンス，ＴＩＦボンド）
横塚雅実委員（鹿島建設（株）） 道路 WG	道路事業における民間資金導入	・道路分野における新しい資金調達の必要性と方向性（経緯と現状，取り組み，課題） ・法律と制度（オーストラリア，カナダ，米国の PPP 事業の事例，レベニューボンド活用スキーム） ・官民の役割分担，ファイナンス ・我が国への展開の示唆（レベニューボンドの適用，ガバナンスが働く仕組み）
綱渕純委員（ジュノーエンジニアリング） 新交通 WG	新交通事業における民間資金導入	・海外の路面交通手段の紹介（サンディエゴ，ニューヨーク，サンフランシスコ，ハワイ） ・何故新交通なのか ・新交通とモノレールの経営状況（国内は経営難，海外は補助が充実） ・投資と経営の改善手法（Joint Development，ターンキー，State Infrastructure Bank） ・シアトルモノレールの例 ・ＰＦＩケーススタディ（料金徴収型，一体整備型，サービス提供型）

最後に、中村裕司副小委員長より「新たな公」とは？と題した話題提供と閉会挨拶がなされた。会場と講演者との間で、海外での事例の多いレベニューボンドの日本への適用可能性や課題，証券化の場合のリスク分担の複雑化への対処など、積極的な議論がなされた。

本シンポジウムは盛況で 79 名の参加があり、改めてインフラ事業の運営・整備・更新に対する民間資金導入の関心の高さをうかがえた。今後はこうした議論が土木学会内にとどまらずに、幅広い関係者、業界で行われることが必要であると強く感じた。

なお、本シンポジウムの実施にあたり、周到な準備を頂いた土木学会研究事業課の皆様を始め、関係各位に謝意を表す。

写真－１　小澤委員長の開会挨拶

写真－２　矢代委員による基礎理論WG報告

写真－３　玉真委員による上下水道WG報告

写真－４　坂東委員によるまちづくりWG報告

写真－５　横塚委員による道路WG報告

写真－６　綱淵委員による新交通WG報告

写真－７　中村副小委員長による「新たな公とは」